

投資支援先の実例

神経オルガノイドをベースとした創薬関連技術の東大発ベンチャー



■ 会社概要

- 会社名
 - (株)Jiksak Bioengineering
- 住所
 - 神奈川県川崎市幸区新川崎7-7
- 代表者
 - 川田治良
- 会社沿革
 - 2018/2 ANRI、大原薬品工業株式会社等から1.7億円の資金調達
 - 2017/2 設立、ANRIからシード投資
 - 2016/12 NEDO SUIに代表川田が採択

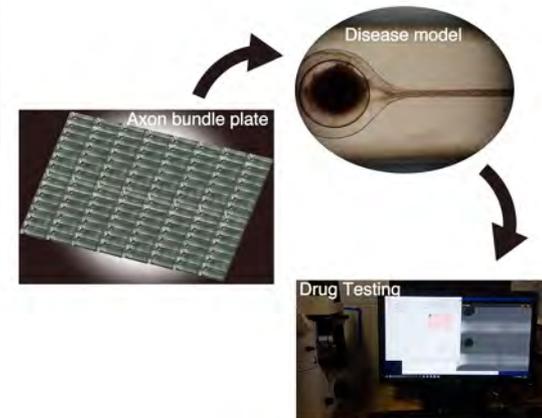
■ メンバー経歴

- 代表取締役: 川田治良
 - 東京大学生産研の藤井研にて神経細胞の培養研究に従事
 - Harvard大学Eggan研での研究経験あり



■ 事業概要

- 世界的に注目されている三次元細胞組織“オルガノイド”を作成し、創薬スクリーニングに活用している東京大学発ベンチャーである
 - アイスバケツチャレンジで広く認知された筋萎縮性側索硬化症 (ALS) やパーキンソン病という難病の治療法開発に挑んでいる





川田 治良

代表取締役

上智大学 理工学部 物理学科 卒業
東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻修士・博士課程修了。博士（工学）
東京大学生産技術研究所特別研究員を経て、2017年に株式会社Jiksak Bioengineering設立。



湯本 法弘

最高技術責任者

京都大学大学院医学研究科分子医学専攻修了。博士（医学）。
2009年より8年間、米国ニューヨーク大学メディカルセンターで研究員として活躍。骨格筋から運動神経に対する「逆行性の前シナプス分化シグナル」の同定に成功し、2012年にNature誌に報告した。その後、アストラゼネカ社でのメディカルアフェアーズ部での活動を経て、2018年7月より、現職。神経筋接合部を対象とした創薬事業を中心に活動中。



徳永 慎治

最高執行責任者

早稲田大学 理工学部 電気・情報生命工学科 卒業
早稲田大学院 先進理工学研究科 電気・情報生命専攻修了（博士号取得）
国立精神・神経医療研究センター
ラクオリア創薬株式会社



滝谷 慶太

主任研究員

東京理科大学大学院 生命科学研究科 生命科学専攻を修士課程修了。山形大学医学部 腫瘍分子医科学講座 研究支援者、助手としてがん幹細胞をターゲットとした研究に従事する。
その後、受託会社に研究員として入社し、そこを通じて製薬会社2社で研究に従事し、そのうち1社では、“がんのオルガノイド”を利用した研究開発に大きく携わる。2018年6月から株式会社Jiksak Bioengineeringに主任研究員として入社し、三次元構造を有する神経細胞組織“Nerve Organoid”のデバイス開発に取り組む。

「若き研究者よ、今こそ立ち上がれ」社員1人のバイオベンチャーJiksak、ALSなくす挑戦へ1.9億円を調達



自分みたいなやつでも、スタートアップできる

せっかくなので川田氏のことも少し紹介しておきたい。同氏は東大の生産技術研究所でマイクロ流体デバイスを用いた細胞培養や、iPS細胞の研究に従事。東大博士課程中にハーバード大学へ留学、帰国後は再び東大に戻った。

もちろんそのまま大学で研究を続けるという選択肢もあったのだろうが「この技術を確立して少しでも早く産業界に展開したい」という気持ちが強かったそう。研究の傍ら、外部の人と合う中でANRIの鮫島昌弘氏と出会い、出資を受けられる目処が立った。同時期にNEDOのSUI採択案件（研究開発型ベンチャー支援事業）にも選出。2017年2月に起業した。

2018年2月に鮫島氏が社外取締役就任したが、今でも社員は川田氏1人だけ。今回の資金調達も研究開発と並行して「周りからは相当ディスられながらも1人でやった」（川田氏）そうだ。

「大学で研究することももちろん価値があることだけれど（その研究を事業として）社会に生かしていくことも大切。ポスドク（博士後研究員）の中には、今後自分の研究をどう進めていくか悩んでいる人も多い。今はアカデミアの領域以外にもチャレンジできる場所があり、自分みたいな人間でも起業して資金調達をしながら事業を進めていける環境だ。起業という選択肢があってもいいし、博士号をとったような人材が（ビジネスの現場に）でてくると、日本のバイオベンチャーもさらに盛り上がる」（川田氏）

出典: TechCrunch

マイクロRNA補足技術をベースとした次世代型診断の名古屋大発ベンチャー

■ 会社概要

- 会社名
 - Icaria 株式会社
- 住所
 - 東京都文京区本郷5-25-18
- 代表者
 - 小野瀬隆一
- 会社沿革
 - 2018/12 NEDO STS採択
 - 2018/6 ANRIより資金調達
 - 2018/5 設立



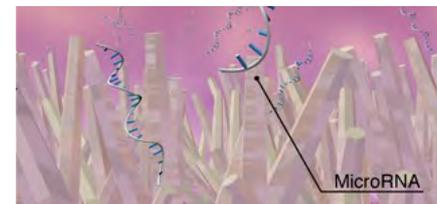
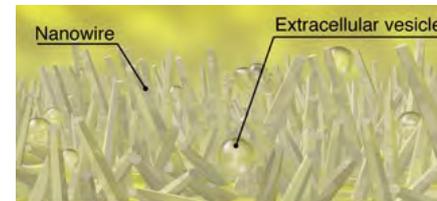
■ メンバー経歴

- 代表取締役:小野瀬隆一
 - 早稲田大学卒、三菱商事にてLNG船事業に従事後にIcaria創業
- 取締役:竹下大貴
 - 名古屋大学院時代に本技術の開発に携わり、豊田自動織機を経て入社
- アドバイザー:安井隆雄
 - 名古屋大学工学研究科 准教授、Icariaのコア技術の開発者



■ 事業概要

- 尿を利用したリキッドバイオプシー(液体生検)で疾病を早期発見し、早期治療を実現する
 - リキッドバイオプシーの領域では米国ではGrail、Freenome等が大きく注目
- 名大で開発した尿中エクソソーム由来のマイクロRNA抽出デバイスを活用



■ 会社概要・創業メンバー経歴

- 会社名：(株)Qunasys
- 住所：東京都文京区本郷5-25-18 ハイテク本郷ビル1F
- 代表者：楊 天任
- 設立：2018年2月
- 楊氏は東京大学大学院修士2年で機械学習を専攻。京都大学 藤井氏、大坂大学 北川氏・根来氏、大津留氏(DBJキャピタル顧問)も創業メンバー



■ 事業概要

- GoogleやIBM、Rigetti Computingなどの量子コンピューターのハードウェアを動かすためのソフトウェアの開発ならびに大企業向けコンサルティング事業

日本発の量子コンピュータ系スタートアップQunaSys
が数千万円を調達、第一線の研究を実用化へ

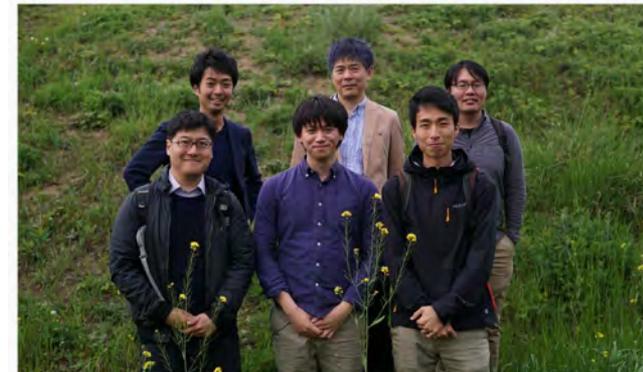
2018年11月25日 by masumi ohsaki

シェア ツイート BI はてな

次の記事

出典：TechCrunch

第一線の研究者がタッグ、社会への応用目指す



新産業を創出する上で、官と大企業、スタートアップ間での連携が不足

20代の若手起業家からすると、なかなか霞が関にコンタクトしにくい。
心理的なハードルも。。

ANRIでは量子コンピューターのカンファレンスを開催する等、そのブリッジを担うことも。

優れた技術シーズが見つかっていても社長候補が不足

コンサルや事業会社等から人材の流入が増加しているものの、まだまだ不足

スタートアップは信用が不足している為、大企業への導入に時間がかかる

霞が関の皆様には試験導入して頂くだけでも格段に信用が増加(例：Sansan)